

第1期中期目標期間の達成状況に関する評価結果

旭川医科大学

平成23年5月

独立行政法人大学評価・学位授与機構

(I) 教育に関する目標

1. 評価結果及び判断理由

【評価結果】 中期目標の達成状況がおおむね良好である

(判断理由) 「教育に関する目標」に係る中期目標(4項目)のうち、2項目が「良好」、2項目が「おおむね良好」であり、これらの結果を総合的に判断した。

(参考)

平成16～19年度の評価結果は以下のとおりであった。

【評価結果】 中期目標の達成状況がおおむね良好である

(判断理由) 「教育に関する目標」に係る中期目標(4項目)のうち、1項目が「良好」、3項目が「おおむね良好」であり、これらの結果を総合的に判断した。

2. 各中期目標の達成状況

① 教育の成果に関する目標

【評価結果】 中期目標の達成状況がおおむね良好である

(判断理由) 平成16～19年度の評価結果は「教育の成果に関する目標」の下に定められている具体的な目標(3項目)のすべてが「おおむね良好」であったことから、「中期目標の達成状況がおおむね良好である」であった。

平成20、21年度の達成状況を踏まえた結果は、3項目のすべてが「おおむね良好」とし、これらの結果に加え、学部・研究科等の現況分析における関連項目「学業の成果」「進路・就職の状況」の結果も勘案して、総合的に判断した。

<特記すべき点>

(特色ある点)

- 中期計画「入学センターを中心として、入学から卒後の職業活動までの学生の活動に関する追跡調査を行い、教育の成果・効果を検証する」について、平成16年度に「学生トレース支援システム」を開発し、学生の活動に関する追跡調査を行い、教育の成果・効果を検証しているなど大学教育のレベルアップのために実績を積み重ねていることは、特色ある取組であると判断される。

② 教育内容等に関する目標

【評価結果】 中期目標の達成状況が良好である

(判断理由) 平成16～19年度の評価結果は「教育内容等に関する目標」の下に定められている具体的な目標(14項目)のうち、2項目が「非常に優れて

いる」、4項目が「良好」、8項目が「おおむね良好」であったことから、「中期目標の達成状況がおおむね良好である」であった。

平成 20、21 年度の達成状況を踏まえた結果は、3項目が「非常に優れている」、3項目が「良好」、8項目が「おおむね良好」とし、これらの結果に加え、学部・研究科等の現況分析における関連項目「教育内容」「教育方法」の結果も勘案して、総合的に判断した。

＜特記すべき点＞

（優れた点）

- 中期計画「オープンキャンパスやホームページ等の充実により、アドミッション・ポリシーの周知徹底を図り、地域医療に関心を持つ受験者を増やす」について、大学のアドミッション・ポリシーを地域社会に周知徹底させるために、大学概要、大学案内、入学者選抜要項、学生募集要項に記載するとともに、大学ウェブサイト、携帯電話サイト及び大学入試センターの「ハートシステム」で公表したこと、また、オープンキャンパス及び大学説明会の参加者数が毎年増加し、実際に受験者数が増加していることは、優れていると判断される。
- 中期計画「平成 18 年度末までに、アドミッション・ポリシーに沿った学生の確保を推進するために、現行の AO 入試方法を改善する」について、平成 20 年度から医学科において「編入学北海道地域枠」及び「地域枠推薦入試」、平成 21 年度から「AO 入試北海道地域枠」を導入し、入学定員の約 50 %を北海道内出身者枠としていることは、平成 21 年度入学者の 67 %を北海道出身者が占めるという実績を上げている点で、優れていると判断される。

（特色ある点）

- 中期計画「豊かな人間性と多角的視点の育成という観点から、保健・医療・福祉施設等における実学的実習を充実させる」について、地域医療機関との連携を強めるため、「地域・へき地医療教育実践センター」を設置し、新たな実習施設の確保を行っていることは、特色ある取組であると判断される。

（顕著な変化が認められる点）

- 中期計画「平成 18 年度末までに、アドミッション・ポリシーに沿った学生の確保を推進するために、現行の AO 入試方法を改善する」について、平成 16～19 年度の評価においては、「おおむね良好」であったが、平成 20、21 年度の実施状況においては、「良好」となった。（「優れた点」参照）

③ 教育の実施体制等に関する目標

【評価結果】 中期目標の達成状況が良好である

(判断理由) 平成 16 ～ 19 年度の評価結果は「教育の実施体制等に関する目標」の下に定められている具体的な目標（5 項目）のうち、1 項目が「非常に優れている」、3 項目が「良好」、1 項目が「おおむね良好」であったことから、「中期目標の達成状況が良好である」であった。

平成 20、21 年度の達成状況を踏まえた結果は、1 項目が「非常に優れている」、3 項目が「良好」、1 項目が「おおむね良好」とし、これらの結果に加え、学部・研究科等の現況分析における関連項目「教育の実施体制」の結果も勘案して、総合的に判断した。

<特記すべき点>**(特色ある点)**

- 中期計画「平成 17 年度から、スキルズ・ラボラトリーを卒前・卒後医学教育、学内外の医療従事者等の教育に積極的に活用する体制を整備する」について、「スキルズ・ラボラトリー管理運営要項」を改正し、スキルズ・ラボラトリーの使用者の範囲を学外の医療従事者にも広げていることは、特色ある取組であると判断される。

④ 学生への支援に関する目標**【評価結果】 中期目標の達成状況がおおむね良好である**

(判断理由) 平成 16 ～ 19 年度の評価結果は「学生への支援に関する目標」の下に定められている具体的な目標（3 項目）のすべてが「おおむね良好」であったことから、「中期目標の達成状況がおおむね良好である」であった。

平成 20、21 年度の達成状況を踏まえた結果は、3 項目のすべてが「おおむね良好」であることから判断した。

<特記すべき点>**(特色ある点)**

- 中期計画「留学生の住宅環境及び生活環境を向上させるための方策を検討する」について、職員宿舎への入居資格を留学生にも拡大するなど留学生の生活環境の向上を図るとともに、平成 17 年度には「国際交流推進室」を設置し、学術振興後援資金による支援事業の一つとして、外国人留学生がより修学・研究に専念できるよう 1 人月額 3 万円を支援するなど留学生支援事業を開始したことは、特色ある取組であると判断される。

(Ⅱ) 研究に関する目標**1. 評価結果及び判断理由**

【評価結果】 中期目標の達成状況が良好である

(判断理由) 「研究に関する目標」に係る中期目標（2項目）のすべてが「良好」であることから判断した。

(参考)

平成16～19年度の評価結果は以下のとおりであった。

【評価結果】 中期目標の達成状況が良好である

(判断理由) 「研究に関する目標」に係る中期目標（2項目）のすべてが「良好」であることから判断した。

2. 各中期目標の達成状況

① 研究水準及び研究の成果等に関する目標

【評価結果】 中期目標の達成状況が良好である

(判断理由) 平成16～19年度の評価結果は「研究水準及び研究の成果等に関する目標」の下に定められている具体的な目標（7項目）のうち、1項目が「非常に優れている」、3項目が「良好」、3項目が「おおむね良好」であったことから、「中期目標の達成状況が良好である」であった。

平成20、21年度の達成状況を踏まえた結果は、1項目が「非常に優れている」、3項目が「良好」、3項目が「おおむね良好」とし、これらの結果に加え、学部・研究科等の現況分析における関連項目「研究活動の状況」「研究成果の状況」の結果も勘案して、総合的に判断した。

<特記すべき点>

(特色ある点)

- 中期計画「遠隔医療の高質化研究開発と利用促進」について、遠隔医療システムに関する研究を行い、道内を中心に国内外46の医療機関とネットワーク形成したことにより地域医療機関のみならず海外の医療機関と連携していることは、特色ある取組であると判断される。

② 研究実施体制等の整備に関する目標

【評価結果】 中期目標の達成状況が良好である

(判断理由) 平成16～19年度の評価結果は「研究実施体制等の整備に関する目標」の下に定められている具体的な目標（4項目）のうち、1項目が「非常に優れている」、1項目が「良好」、2項目が「おおむね良好」であったことから、「中期目標の達成状況が良好である」であった。

平成20、21年度の達成状況を踏まえた結果は、1項目が「非常に優れている」、1項目が「良好」、2項目が「おおむね良好」とし、これらの

結果を総合的に判断した。

<特記すべき点>

(優れた点)

- 中期計画「研究戦略にかかわる企画・立案・推進などの支援を行う研究戦略・教育支援室を充実させる」について、研究に特化した副学長を新設するとともに、研究戦略・教育支援室の室員を11名から17名に増強することにより教育支援室を充実させ、公募事業への申請及びプロジェクト研究の推進を支援し、平成19年度大学教育改革支援プログラムに申請した3件全てが採択されたことは、優れていると判断される。

(Ⅲ) その他の目標

(1) 社会との連携、国際交流等に関する目標

1. 評価結果及び判断理由

【評価結果】 中期目標の達成状況が良好である

(判断理由) 「社会との連携、国際交流等に関する目標」に係る中期目標(1項目)が「良好」であることから判断した。

(参考)

平成16～19年度の評価結果は以下のとおりであった。

【評価結果】 中期目標の達成状況が良好である

(判断理由) 「社会との連携、国際交流等に関する目標」に係る中期目標(1項目)が「良好」であることから判断した。

2. 各中期目標の達成状況

① 社会との連携、国際交流等に関する目標

【評価結果】 中期目標の達成状況が良好である

(判断理由) 平成16～19年度の評価結果は「社会との連携、国際交流等に関する目標」の下に定められている具体的な目標(5項目)のうち、2項目が「非常に優れている」、2項目が「良好」、1項目が「おおむね良好」であったことから、「中期目標の達成状況が良好である」であった。

平成20、21年度の達成状況を踏まえた結果は、2項目が「非常に優れている」、2項目が「良好」、1項目が「おおむね良好」とし、これらの結果を総合的に判断した。

<特記すべき点>

(優れた点)

- 中期計画「発展途上国への研究技術供与を行う」について、寄生虫感染症対策研究に対する研究支援では、開発途上国との寄生虫領域における積極的な協力関係を図り、研究支援事業、招待講演、シンポジウムの開催、研究者の受入れ及びガイドラインの作成等を行い、アジアのリーダーシップを確保していることは、優れていると判断される。

(特色ある点)

- 中期計画「遠隔医療センターのシステムを用いた学外の医療機関へのリアルタイムでの医療技術指導、画像診断及び病理診断サービスを拡充する」について、遠隔医療システムにより開発途上国を含めた遠隔地の機関に対してリアルタイムでの診断・手術支援、MRI 等の画像診断、術中迅速病理組織診断（テレパソロジー）等を行い、積極的な医療の向上に貢献していることは、特色ある取組であると判断される。